

令和5年度 学校経営計画

1 学校教育目標

創校の志「学びたきもの集う」と校訓「慎重敢為」を継承し、以下の教育目標の下、人類の発展的未来に貢献する人間の育成をめざす。

- 高邁な理想に向かって、自ら考え方行動できる優れた知性を育成する。
- 情操豊かにして自他敬愛の心を持ち、品格ある徳性を陶冶する。
- 平和な世界や国家・郷土の形成者として、たくましい体力・気力を養成する。

2 学校の特色

本校は明治18年に創立された富山県中学校を前身とし、創立138周年を迎えた。創校の志「学びたきもの集う」と、「慎重自ラ持シ、敢為事ニ当ル」という校訓を今日に継承し、心身ともに健全で、国際社会の発展に寄与する人間の育成を教育目標として掲げている。

学級編制は、各学年普通科5クラス、理数科学科・人文社会学科(総称は探究科学科)併せて2クラスとなっていたが、令和5年度入学生より普通科4クラス、探究科学科2クラスとなった。生徒総数は男子370名、女子422名(計792名)となり約40名減少した。また、女子の割合は53%であり、ほぼ変化はない。入学してくる生徒のほぼ全員が4年制大学進学を志している。また大部分の生徒が部活動に加入し、部活動と学習の両立を図りつつ積極的に活動している。

平成14年度から平成18年度(17年度以降は継続事業)まで、文部科学省の研究開発事業である「スーパーサイエンスハイスクール(S S H)」の指定を受けた。

平成23年度からは理数科学科、人文社会学科が新設され、科学的思考力の育成を重視した教育活動を実践している。

平成29年度から令和2年度まで「ICT教育推進事業」実施校、平成30年度から令和元年度まで「新たな学び創造事業」の拠点校に指定された。

令和4年度から、未来を支える人材育成を目的とした「学びのイノベーション・プラットフォーム」の特別会員の承認を受けた。

また、令和4年度に育成を目指す資質・能力に関する方針として「自学・自楽する18歳へ」、教育課程の編成及び実施に関する方針として「慎重自ら持し 敢為事に當る」、入学者の受け入れに関する方針として「学びたきものつどう」を核にすえ、スクールポリシーを策定した。

3 学校の現状と課題

何事にも真面目に取り組むが、自主性、主体性にやや欠ける生徒が増えている中、特に学習面、進路面において、自らの能力・適性等を正しく評価し、設定した高い目標に向け、意欲的に取り組むことができるようになることが求められている。この観点から、本校では「一人ひとりの生徒が自ら学び、考え方行動する力を培い、科学的思考力や探究力など、確かな学力と高い目標に向け、主体的に進路選択する能力や態度を身につけるようにする」を学校課題として掲げ、教育諸活動を推進している。

4 学校教育計画

項目		目標・方針及び計画	
1	A 学習活動	目標	グラデュエーションポリシー「 自学・自楽する18歳 」への到達に向けて、一人ひとりの生徒の実態を的確に捉え、自主性の喚起を念頭に置いた学習活動を展開することで、発展的未来に貢献する資質能力を自ら高めていくことのできる人間を育成する。
	教科指導計画	計画	○予習復習を含めた生徒の自主的な学習が効果的なものとなるよう、学年担当者と教科担当者が連携してその内容を検討、共有する。
	重点1		○生徒が 学びと成長のウェルビーイング を自己診断し、学びの調整を行う機会を持つ。
			○「内容理解」「授業構想」「Improvisation(即興)」「他科目連動」の4観点で教師が授業力を向上させる。
2	B 学校生活	目標	生徒が主体的に判断し積極的に行動できる力を養うとともに、18才成人の意義を理解し、社会性・道徳性を高める。
	生徒指導計画	計画	○日常のさまざまな場面で生徒との触れ合いを通じて、観察と指導の機会を積極的に持つとともに、計画的に個人面接を行なう。
	重点2		○健康に留意し、 基本的生活習慣を改善 させ、安易な遅刻、早退、欠席を減らす。
			○担任・学年や教育支援部や保健厚生部と連携しながら、18才成人の意義を啓蒙し、一人ひとりに応じた指導を進める。
3	保健管理指導計画	目標	生徒一人ひとりが健康・体力の保持増進に努め、自主的かつ積極的に健康管理ができるよう、意識の向上と適切な習慣・態度を育成する。
	重点2	計画	○健康の保持増進を図るために、日頃の健康管理と定期的な受診の重要性について啓蒙を図る。また、 健康的な環境づくりに努めさせる 。
	教育支援計画	目標	○教科指導やHR等をとおして、規則正しい生活・食事・睡眠が健康生活の基盤であることを理解させる。
		計画	○生徒の自己理解を促し、人間のあり方や対人関係の心構えに関する基本的な考え方を身につけさせる。
3	C 進路支援	目標	生徒一人ひとりが自分の将来の生き方や人生への関心を深め、自己実現ができるよう、個性・学力を伸ばし、主体的に進路を選択・決定する進路指導を実践する。
	進路指導計画	計画	○キャリア講座・進路講演会の実施やホームルームでの進路学習、学年による進路面談などをとおして、早期に進路目標を確立させる。
	重点3		○系統的、計画的なキャリア教育の一層の充実をはかり、生徒一人ひとりの進路意識を明確にすることで、各自の進路志望の実現を支援する。

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

令和5年度 富山高等学校アクションプラン ー1ー

重点項目	学習活動
重点課題	「自学・自楽する18歳へ」と、学びと成長のウェルビーイングの達成
現 状	<p>本校では、「発展的未来に貢献する人間の育成」を目指し、進路実現と、卒業後のさらなる飛躍の土台となる資質能力の育成につながる教育を展開している。の中でも、学習活動の両輪は、授業と、授業外の「自主的な学習」である。</p> <p>「授業」に関しては、10年以上にわたり「学び合い」「ICT活用」など、手法や授業展開の工夫に重点を置いて取り組み、成果をあげてきた。今後はさらに、生徒自身がその授業に「受け手」ではなく「学びの創造者」としてのマインドセットをもって臨むことができるか、それをいかに促すことができるかを重点課題とし、生徒の一層の能力伸長につなげたい。</p> <p>「自主的な学習」に関しては、授業の効果を高め、内容が定着するような取り組みが十分になされていることの指標の1つとして、週28~34時間程度の時数が学年ごとに設定されている。学習量が少ない生徒に対しては、面談による声かけなどを行ってきたが、その効果が一過性に終わらず、自発性の高まりによって継続するような指導を工夫する必要がある。</p>
達成目標	<p>1 「授業」について:主体性を育む授業の実施と、授業を活かす生徒のマインドセットの確立</p> <p>①生徒による授業参加の自己評価 「学び合い」や「教え合い」、「振り返り」などの活動を自分自身の学びの場として活かすことができた生徒の割合が100%となること。</p> <p>②授業に関わる事前/事後課題への取り組み その授業を効果的に受講するために課された課題への取り組みが100%となること。</p> <p>1、2ともに、9月、1月に実施する学習生活実態調査時に生徒アンケートを実施する。各項目が、3年後に100%となることを目指す。</p> <p>2 「自主的な学習」について:学びと成長のウェルビーイングの達成</p> <p>①自分自身の成長の実感 日ごろの自主的な学習活動の結果、自分の思考力・判断力・表現力が向上したと実感した生徒の割合が100%となること。</p> <p>②持続可能性 日ごろの自らの学習活動が、高校の3年間にわたって持続可能なものとなっていると感じている生徒の割合が100%となること。</p> <p>③多様性 日ごろの学習活動が、自分自身やその目標に適合したものとなっていると感じている生徒の割合が100%となること。</p>
方 策	<p>1 進路指導部との連携…進路学習係と担任・教科担当者との連携において、生徒が家庭学習に主体的に取り組める適正な課題の質および量を設定し、細かく調整するようにする。また、その際には授業と学習課題の有機的な結びつきを高めるとともに、実態としての個別最適化が実現されるように工夫する。</p> <p>2 面接指導の充実…面接週間を7回設定した。特に、学習時間の確保に困難を感じている生徒や学習効率に工夫が必要な生徒に対しては、ウェルビーイングの観点①~③の実態の把握と共有を出発点にしながら、対話的に指導を行う。</p> <p>3 授業におけるImprovisation (即興) の促進…教師の「授業構想」を基本としながらも、随時臨機応変の生徒間、生徒教師間の対話的な学びを促進する。</p> <p>4 働き方改革の推進…教務規定や成績評価の業務の見直しを通して、教員自身が「自学・自楽」し、ウェルビーイングを体現する生き方、学び方の価値観を再構築する時間を創出する。</p>

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和5年度 富山高等学校アクションプラン-2-

重点項目	学校生活
重点課題	基本的生活習慣の改善
現 状	<p>本校では『生活あっての学習』を掲げ、規則正しい生活習慣の確立をめざしている。しかし、スマートフォン等を長時間使用し、学習に支障をきたす生徒も見受けられる。また、スマートフォンの利用時間は、最近数年は増加の傾向にある。</p> <p>また、昨年の4月から18才を成人年齢とする法律が施行され、法的には親の承諾なく売買等の契約や、婚姻等の届が出せるようになったが、そうした18才をターゲットにした犯罪の危険性もしてきされている。しかし、成人としての自覚や責任をまだ意識していない3年生が多い。</p>
達成目標	<p>1 スマートフォンの、学習活動・生徒間連絡利用以外の使用時間短縮 学習活動や生徒間の連絡以外の目的でスマートフォンを使用している時間が1日2時間以内である生徒割合が70%以上。</p> <p>2 個人情報のSNSへの安易な書き込みの防止 ネットパトロール等外部から指摘を受けるような他人の個人情報掲載、著作権違反、他への中傷記載などなくす。</p> <p>3 主体的に18才を成人年齢とする法律の要点を理解する態度の涵養 18才を成人年齢とする法律を学ぼう(理解しよう)とした3年生の割合が80%以上。</p> <p>4 校内清掃の大切さと、清掃が生活向上につながることを認識できる生徒の割合を9割以上にする。</p>
方 策	<p>1 スマートフォンは学習活動・生徒間連絡に不可欠なものとなりつつあるが、生徒に対して講演会を実施するほか、教員・保護者が連携して生徒の現状把握に努め、使用時間を控えさせる。</p> <p>2 個人情報の安易な開示・書き込みなどについての危険性について生徒の意識向上を図る。</p> <p>3 法律によって改められる権利と義務を、さまざまな機会を通じて啓蒙する。</p> <p>4 月例大掃除の実施方法を改善し、清掃の取り組み意欲を向上させる。</p> <p>5 アンケート調査により、生徒の清掃に対する意識変化をみる。</p>

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなつた)

令和5年度 富山高等学校アクションプラン -3-	
重点項目	進路支援
重点課題	生徒一人ひとりの適性や能力を引き出す学習・進路指導
現 状	1 本校では、週間課題を生徒に課しているが、自らの進路意識が薄く課題を「やらされている感」を持っている生徒が年々増加しており、課題提出率が低くなっている。 2 本校では、生徒の進路意識の向上と学習意欲の喚起を目的に、折に触れて様々な進路行事を開催している。さらに外部講師を招き、1・2・3学年とも進路講演会を行っている。これらによってモチベーションを高める生徒がいる一方で、進路意識が高まらない生徒も散見される。
達成目標	1 「自ら学ぶ集団」を作る進路指導の実現 ・課題の量・取り組み方の指導について教員側が工夫をこらし、生徒が自主的に取り組めるようにする。進路実現のために自ら課題に取り組む生徒の割合80%以上。 2 進路目標(志望校)の設定 ・各種進路行事・外部講師を招いての進路講演会を通じて目的意識を持って学習に取り組むようになった生徒の割合80%以上。 ・目標とすべき志望校が、第2学年が終了するまでには決定している。
方 策	1 教員側が各教科の指導において、いつどのような課題を与えてどんな力をつけるかを工夫し、生徒によく理解させ、自主的に課題に取り組ませる。 2 学年集会や面談等を利用し、進路を考える機会とする。 3 高い進路目標を持つ集団を、補講や大学志望別集会などを通じて早期に形成させ、お互いに切磋琢磨できる環境を学校生活のさまざまな場面で育成するように努める。 4 学習支援講座や講演会、「進路のしおり」等を通して、生徒にとって必要かつ有意義な情報の提供ができるように努める。 5 社会人や大学生を招いたキャリア教育により、主体的に「学びに向かう力」を育むことができるよう支援する。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和5年度 富山高等学校アクションプラン-4-	
重点項目	特別活動の充実
重点課題	学校行事への主体的な取り組み及び全校生徒の積極的な参加を促す為の生徒会規約の改定
現 状	学校行事は生徒の主体的活動を促し、実生活における思考力、表現力、判断力の礎となる重要なものである。さらに主体的な学びを促進する重要な機会でもある。本校では生徒と教職員が協力して生徒会や実行委員会で諸行事を運営している。 ただし生徒たちの主体的な活動とはいえ、実際の活動は基本的に前年度を踏襲する、もしくは前年度のマイナーチェンジというのが現状だった。ところがコロナ禍による行事の中止、縮小が相次ぐ中、生徒たちは想像し工夫しながら行事の開催にたどり着くという、真の意味での主体的な活動になりつつある。 だがまたその一方で一部の生徒たちだけで企画運営し、教師や他の生徒に活動の状況が伝わらないという現象も見えてきている。 生徒会や実行委員会の活動を「見える化」し生徒全員が企画・運営に参加する学校行事にしていきたい。 また、9割以上の生徒が部活動に所属していることから部活動に参加することがより良い学校生活や進路選択につながるように支援していきたい。
達成目標	1 本校の二大学校行事(体育大会、文化活動発表会)に自ら協力できたと感じる生徒が80%以上。 充実していたと感じる生徒が85%以上。 2 生徒会の規約を見直し、全校集会(生徒総会)などが開催できるシステムを構築する。
方 策	1 年間における特活行事の時期・目的・内容等の検討を行う。 2 主な学校行事(体育大会、文化活動発表会、)に対して以下の項目を中心にアンケートを実施する。 ①準備や運営に自ら協力できたか。②この行事は充実していたか。③その他意見 3 生徒会の規約を時代に沿った内容に、生徒と教員が話し合いながら改正を進める。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和5年度 富山高等学校アクションプラン-5-

重点項目	探究活動の充実		
重点課題	探究的学習の深化		
現 状	めまぐるしく変化する現代社会において、「既存知」が豊富であるだけでなく「未来知」を創造できる高い資質能力が求められつつある。その育成のためには、何が「課題」であるかを考え他者と「協働」して「解決」していくことや、知識や情報を再構成して「新たな価値」へと繋げていくことができるようになることが必要である。同時に、それらを育む効果的な教育課程が求められている。		
達成目標	1 探究科学科:[課題発見力・論理的思考力の育成] 単元ごと、及びポスターセッション後の自己評価 上記の自己評価を実施し、「批判的」かつ「創造的」思考力の育成が「協働的」学びの中で行われているか確認する。	2 普通科:[主体的学習態度の醸成] 各学期末、及び成果発表会後の自己評価 上記の自己評価を実施し、実社会や実生活における諸問題に、「主体的」に「自分事」として捉え、納得解を探そうとしているか確認する。	
方 策	1 「探究基礎Ⅰ」「探究基礎Ⅱ」「理数探究」の指導内容・指導方法を十分研究し、授業担当者間で共通理解と綿密な連携を計りながら実施する。 2 自ら高い目標を設定し単元ごとに主体的に自己評価を行うことの意義と、今後の学力や進路選択や人生における有用性を理解させ、探究活動への意欲を喚起する。 3 情報機器を適切に操作する技能を習得させ、情報を取捨選択し適切に扱う情報倫理や研究倫理を理解させる。 4 1年次の巡査研修や2年次の東京方面研修において、探究活動がより深められるよう計画・実施する。	5 生徒の実態に即した教科横断的で総合的な授業となるよう指導内容・指導方法を十分研究し、授業担当者間で共通理解と綿密な連携を計りながら実施する。 6 実社会にはすぐに解答や正解が得られない課題や問題が存在することを理解させ、自身の今後の生き方や在り方を思索する機会とする。 7 現在の課題に対し最適解や納得解を見いだすことの意義と、今後の学力や進路選択や人生における有用性を理解させ、探究活動の意欲を喚起する。 8 情報機器を適切に操作する技能を習得させ、データの基本的な処理方法を理解させる。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなつた)